

シグマ研究委員会ガス生成核データ, 中重核データWG合同会合議事録

日 時 : 1985年1月17日 13:30~17:30

場 所 : 原研本部第7会議室

出席者 : 菊池, 中川, 杉 (原研), 八谷 (三井造船), 浅野 (住友原子力), 吉田,
川合, 飯島 (NAIG), 山室 (オブザーバー, NAIG)

配布資料

- (1) 前回 (1984年11月9日) 会合議事録
- (2) GAS-85-01 杉, 他 ; 中重核断面積計算における THRESH-2 コードの
パラメタ系統性の改善, S60年会予稿。
及び, 飯島, 他 ; 中重核断面積の前平衡理論計算におけるパラメタ感度,
S60年会予稿。
- (3) GAS-85-02 : Status of threshold cross section evaluation
of structural materials (飯島)
- (4) GAS-85-03 : 新しいGNASHコードとその改良版GNASH 84 について
(川合)
- (5) GAS-85-04 : ELISE-3Gコードについて (川合)
- (6) GAS-85-05 : International nuclear model comparison study
of the spherical optical model for charged particles,
P. E. Hodgson, Univ. Oxford (川合)
- (7) GAS-85-06 : Introduction to NEW GNASH code and some
modifications in JNDC. (1984核データ研究会報告) (川合)
- (8) GAS-85-07 : JOBSETTER (GNASH) についての資料 (中川)
- (9) GAS-85-08 : 前平衡理論での放出粒子角分布の計算法 (飯島)
- (10) GAS-85-09 : GNASH (新版) の実行手法 (山室)

議 事

1. 前回議事録の確認, 他

資料1により, 前回議事録の確認を行なった。尚, 今回は, 中重核データWG
との合同会合であり, 共通の問題の討議と, 特に今後の構造材核データ評価作業

の進め方を議論することとした。

これに関連して、JENDL-2の、Cr, Fe, Ni同位元素及び自然元素のしきい反応断面積の、評価値の status を、資料(2)に沿って飯島氏から説明があった。結果として、JENDL-3のためには、これらのしきい反応はすべて再評価が必要であること、又、特殊目的への利用を充分考慮する必要があることを確認した。

2. 構造材核データ評価作業の進め方の議論の要点

DDXの要求をみたすために、coupled channel 計算と、前平衡過程計算（特に、中性子放出については角分布迄含めて）が必要とされる。Coupled channel（ECISコード）計算は、大変計算時間が掛る。CASTHYコードも用いるので、複合核形成断面積の保存則を守るようにしておかなければならない。

S. 60年度は、 ^{58}Ni についてテスト的に評価を進める。

3. ELISE-3G, New GNASHコードについて

資料(4), (5), (6), (7)に沿って、川合氏から、ELISE-3G及びnew GNASH（GNASH 84）の説明と、入、出力の解説があった。GNASH 84は、原研、NAIGで整備が済み、使用可能である。但し、山室氏のレベル密度オプションを入力し得るものは未だ完全ではない。

これと関連して、資料(8)を参考として、中川氏から、GNAS用JOBSETTERの作成の状況の説明があった。

又、資料(10)により、山室氏から、GNASHコードでの計算の段階的進め方の推奨案が出された。

4. 前平衡理論への角分布の含め方について

資料(9)により、飯島氏から、PREANGコードで用いられている、放出粒子角分布の計算法の紹介があった。簡単に小コードを作成出来るので、利用し得る見込みがある。

次回予定

日時：1985年2月21日（木） 13:30～17:30

場所：(1) THRESH-2パラメタ改訂検討

議題：(2) 前平衡理論計算検討

(3) レベル密度パラメタの決定

(4) その他